

「学生による授業評価」のまとめ 2022年度第1・第2クォーター刊行にあたって

2022年12月

南山大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会  
委員長 沢登文治

南山大学では、1997年度から全学で「学生による授業評価」を実施してきた。この授業評価の目的は、各教員が授業方法の改善点を見出し、大学全体の教育の質を向上させることにある。2017年度よりクォーター制が導入され、同時に「学生による授業評価」はウェブ入力方式へ変更するとともに設問項目の整理を行った。

2020年度および2021年度は世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、大学においても徹底した感染防止対策が導入され、授業形態もそれまでのものとは大きく変更を余儀なくされた。まず2020年初めより大学は入構禁止となり、2020年度第1クォーターの授業は、予定より遅れて4月下旬から、教員と学生の直接的対面がなく、また学生同士の接触もない形態、つまりウェブクラスとズームを用いた「オンライン授業」が、すべての科目で実施された。そして、学生による授業評価は、教員が授業体制を整えることに注力できるよう中止された。

同年度の第3・第4クォーターは、全国的な感染状況の改善が見られたため、第2クォーターのオンライン授業に加えて、通常の対面授業、対面とオンラインを併用するハイブリッド授業も行うこととなり、これらの授業形態に対応できるよう設問内容を変更して学生による授業評価を行った。

また、2020年度より授業評価を行う対象科目数を見直して、専任教員・非常勤教員にかかわらず各クォーター1教員1科目であったのを、各学期(2つのクォーター)1教員1科目に削減した。

そして、2021年度第1・第2クォーターにおいても、2020年度に引き続き、対面授業、ハイブリッド授業およびオンライン授業の3種類の形態で授業が行われた。この状況は、第3・第4クォーターにおいては、対面授業を基本形態としたために、対面授業の全体的科目数は増えたが、ハイブリッド授業を含む3種類の形態で授業が行われたことは同様であった。また、新型コロナウイルス感染症対策に関連して、多くの状況変化が日々展開する中で、2021年度第3・第4クォーターの授業は実施され、2022年度第1・第2クォーターにおいて、コロナ禍前の対面授業にほぼ全科目が戻り、キャンパスも「通常」に復帰した。

なお、評価対象科目の選出ルール等の詳細についてはウェブページ(南山大学ホーム>日本語トップ>在学生の皆様>授業改善への取組(「学生による授業評価」))に掲載されているのでご覧いただきたい。また、授業評価結果の概要についても同じウェブページで開示されている。

## 1 授業評価の実施方法

### ① 対象科目

各学期について1教員につき1科目が選択され第1・第2クォーター合わせて合計451科目が授業評価の対象となった。

### ② 質問項目

質問項目は以下のとおりである。設問1と2は、学生の授業参加を問う項目、設問3から14は教員の授業運営や授業全体に関して問う項目となっている。このほかに、3つの自由記述の質問項目を設けており、理工学部の授業については4つの追加設問項目がある。

〈「学生による授業評価」質問項目〉

設問1：この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。

設問2：受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。

設問3：オンラインで受講した場合、事前に予告された開始時間は守られていましたか。  
対面で受講した場合、授業の開始と終了の時間は守られていましたか。

設問4：毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。

設問5：この授業の到達目標を理解することができましたか。

設問6：あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。

設問7：担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。

設問8：授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。オンラインで受講した場合でネットワーク環境が不安定だった場合は【3 どちらとも言えない】を選択してください。

設問9：教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。

設問10：授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていましたか。

設問11：学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。

設問12：質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。

設問13：この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。

設問14：全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。

### ③ 実施手順

授業評価の実施はウェブ入力によって行われる。回答は匿名化して処理される。学生は、教員の指示により授業時間内外に各自のスマートフォン等を使ってPORTALにログ

インして回答する。授業時間にスマートフォン等を携帯していない等、回答ができない学生は、授業終了後に学内または自宅PC等を利用して回答することが可能である。

#### ④ 実施・集計日程

以下の日程で実施集計を行った。別途、FD委員会による自由記述の閲覧および結果の分析・検討を行っている。

	第1クォーター	第2クォーター
授業評価の実施	2022年5月16日～ 2022年5月28日	2022年7月11日～ 2022年7月23日
集計作業	2022年5月30日～ 2022年6月1日	2022年7月25日～ 2022年7月27日
教員への集計結果の通知	2022年6月2日	2022年7月28日
教員からの自己点検・評価報告書提出	2022年6月2日～ 2022年8月23日	2022年7月28日～ 2022年8月23日
『学生による授業評価』のまとめの発行	2022年12月	2022年12月

## 2 集計結果の概要

### ① 回答率について

回答率は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合である(表1)。全体の数値は、第1クォーター49.01%、第2クォーター46.89%であった。前年度第1クォーター48.05%、第2クォーター50.30%と比較すると、第1クォーターにおいては多少改善しているが、第2クォーターでは下落した。また、今回と前年度同期の規模別回答率を比較すると、第1クォーターの30名以下では7%以上の上昇だが、121～240名では逆に5%以上の下落が見られる。ほぼ常にこの121～240名規模の授業で回答率が最低となっている点は、注意して見ていかなければならないだろう。

表1 回答率(2020年度第2クォーター～2022年度第2クォーター)

	2020Q2	2020Q3	2020Q4	2021Q1	2021Q2	2021Q3	2021Q4	2022Q1	2022Q2
全体	52.42%	42.25%	41.51%	48.05%	50.30%	44.50%	47.90%	49.01%	46.89%
30名以下	68.86%	48.77%	50.22%	62.11%	70.02%	51.66%	58.78%	69.35%	65.55%
31～60名	54.99%	39.65%	42.54%	53.04%	56.27%	46.25%	52.79%	57.93%	55.00%
61～120名	52.44%	40.29%	38.40%	42.26%	48.70%	41.78%	48.63%	48.36%	46.71%
121～240名	49.70%	41.43%	37.00%	46.30%	44.67%	42.21%	43.52%	40.98%	40.53%
241名以上	48.20%	46.64%	43.32%	45.34%	48.84%	46.39%	42.07%	47.74%	42.55%

### ② 報告書提出について

授業評価を行った後に教員より自己点検・評価報告書を提出していただいている。2021年度第1クォーターおよび第2クォーターにおいてと同様に、今回の第3クォーターおよび第4クォーターにおいても非提出者は0件であった。しかし、期限を過ぎての提出が複数件であった点については、まとめ作業への影響があるため、今後も提出期限遵守についてさらにご理解とご協力をお願いすることとしたい。

### ③ 評定平均値について

表2を見ると、ほぼすべての授業で対面授業に戻って直後の学期であったのにもかかわらず、「項目3から14の評定平均値」について第1、第2クォーターそれぞれ4.48および4.47であり、対面とハイブリッドが共存していた2021年度の第1、第2クォーターとほぼ同様であることが分かる。

表3は各設問項目の数値の推移を示している。先回のここでも言及した、設問9の学生の理解度への配慮・板書、配付資料に関する数値は、4.4以上からさらに上昇し、4.5以上となっており、これはすべての授業担当者の様々な努力と工夫の現れであろう。この点が長く継続していくことが期待される。

一点気になるのは、先回も言及した、設問1「授業への興味」および設問2「授業への取り組み・自主的な学習の実行」が、第1、第2両クォーターにおいて若干低下している点である。この点についても今後、継続して注意して見ていきたい。

表2 項目3から14の評定平均値(2020年度第2クォーター～2022年度第2クォーター)

年度・学期	2020Q2	2020Q3	2020Q4	2021Q1	2021Q2	2021Q3	2021Q4	2022Q1	2022Q2
全体	4.43	4.44	4.43	4.43	4.45	4.47	4.40	4.48	4.47

表3 項目ごとの評定平均値(2020年度第2クォーター～2022年度第2クォーター)

	設問項目	2020	2020	2020	2021	2021	2021	2021	2022	2022
		Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
1	授業への興味	4.16	4.12	4.20	4.10	4.12	4.13	4.06	4.07	4.12
2	授業への取り組み・自主的な学習の実行	4.22	4.18	4.22	4.18	4.17	4.15	4.08	4.17	4.14
3	授業時間の厳守	4.73	4.72	4.67	4.74	4.70	4.75	4.64	4.72	4.68
4	構成や速度が適切	4.48	4.49	4.47	4.48	4.49	4.51	4.46	4.52	4.53
5	到達目標の理解	4.19	4.17	4.21	4.16	4.18	4.18	4.16	4.24	4.23
6	到達目標の達成	4.10	4.11	4.14	4.07	4.11	4.12	4.08	4.16	4.15
7	教員の姿勢	4.60	4.60	4.57	4.58	4.60	4.63	4.53	4.63	4.62
8	教員の声	4.48	4.56	4.53	4.60	4.59	4.63	4.60	4.64	4.61

9	理解度への配慮・ 板書、配付資料	4.44	4.47	4.45	4.46	4.47	4.50	4.46	4.53	4.51
10	妨げ行為への対処	4.64	4.67	4.71	4.72	4.70	4.74	4.66	4.69	4.70
11	意欲を引き出す工夫・ 自主的な学習の指導	4.28	4.32	4.30	4.26	4.31	4.35	4.25	4.34	4.34
12	質問や相談の機会	4.45	4.49	4.44	4.42	4.46	4.48	4.36	4.46	4.49
13	知識・理解の深まり	4.39	4.39	4.37	4.38	4.40	4.39	4.36	4.44	4.43
14	全体としての満足度	4.33	4.34	4.33	4.30	4.35	4.36	4.30	4.39	4.38

### 3 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところは、教員ごとの結果である。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示する。それぞれ、次の内容となっている。

- ① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など**
- ② **2種類のレーダーチャート** 右下の図は回答者全員の集計結果であり、左上の図は学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目2の評定値が3.0以上の学生だけに絞って集計した結果である。
- ③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を基に、結果の自己点検評価や、次学期・クォーターに向けた改善策などを書いた報告書である。

### 4 授業評価結果の活用

この授業評価は、授業担当者が自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を学生から収集するために行われている。各授業担当者は、評価項目の数値や自由記述欄に書かれた内容を基礎として、自分の授業について点検・評価を行って改善策を検討する。授業評価の実施、点検および評価、改善策の検討と実施を1つのサイクルとして、授業の質等を向上させることにつながれば幸いである。

今回の授業評価アンケートは、2022年度第1、第2クォーターの実施であり、ハイブリッド授業を含む対面式授業とオンライン授業の形態が混在した2021年度秋学期直後の、原則対面授業（一定の教室定員制限あり）での、いわば初めての実施となった。久しぶりの大教室で多人数との対面授業で、ハイブリッド等のZOOM機器との苦闘とはまた異なる、約3年前の状況への復活、しかし、完全な約3年前とはまた異なる状況にも「対面」しつつ苦心された教育職員は、私だけではなからう。しかし、そのような中でも、若干の変化はクォーターごと、設問ごとにはあるものの、一定の高い評価値が得られたことはやはり一つの安心材料である。しかし、先回の最後に記した次の点はまだ継続していく必要がある。「2022年度からはほぼ全面的に以前の対面授業方式に戻ると仮定すると、来年度の各クォーターにおいて実施される授業評価アンケートの結果の推移について、これまで以上に注意を払っていくことが重要とならう。」

以上